

『三ツ緒伐』立木乾燥法の推進と地域利用住宅の促進

林業の盛んな加子母地域の事業者が一体となって活動している加子母林材振興会では、伝統的な伐採方法である「三ツ緒伐(みつおぎり)」を木材乾燥に応用し、CO2削減と品質確保を両立した製材品の供給を目指しています。

「三ツ緒伐」とは、虫害が少なく乾燥期間の自由度も高い伐採方法で、林内で木材を乾燥させることができるため人工乾燥よりCO2排出量を削減することができます。また、木が軽くなるため、輸送にかかるエネルギーも削減することができます。この取組により、住宅1棟あたり1.4トンのCO2を削減することができます。

寒月三ツ緒伐

(建築用木材の伐り旬といわれる12月から2月に行う施行で立木状態を保つためのワザ)



【活動団体の紹介】

加子母林材振興会

岐阜県中津川市加子母 4534-14(加子母森林組合内)

Tel: 0573-79-3333

Fax: 0573-79-3311

チェーンソーで作業している様子。



岐阜県森林文化アカデミー

富田教授指導の下、岐阜県森林整備課支援担当S. Pと協働でそれぞれの立木の含水率調査を行う様子。



加子母間伐推進センターにおいて、目視による経過観察と来場者に向けて普及啓発を目的に展示している。



岐阜県のみどりの健康住宅推進構想に賛同、立木乾燥木使用にも理解いただいたオーナーに上棟を迎えた日に大黒柱がプレゼントされた。

